

東北

◇ 仙台支局 ◇
仙台市青葉区本町1丁目2-20
KDX仙台ビル3階
☎022(227)0685
FAX022(224)7485

横手市（高橋大市長）は市立小中学校20校

のうち9校の教室に冷房用空調設備としてGHPを採用した。停電を伴う災害時にも冷暖房を使用できる避難所を確保する観点から採用を決めた。そのため9校いずれにも電源自立型GHPと災害対応バルクを採用した。3月から工事が始まり6月末に完成した。

小中学9校にGHP

横手市 避難所機能を充実

全20校の約半数 自立型と災害対応バルク



高橋純一・横手LPガス協議会会長

市には14の小中学校と6中学校がある。このうち11校に電気エアコンを、9校（5小学校、4中学校）にGHPを設置した。横手市は合併前の8市町村のエリアごとに8地域局に分かれている。横手地域局に2校、その他の地域局に1校ずつGHP設置校を配した。

地元事業者でつくる横手LPガス協議会の高橋純一会長（マルナカ燃料社長）が、懇意にしている横手市の教育関係の幹部との会話の中で「停電

しても自立的に発電しながら稼働し続けられるガス空調がある」と話題に出したことがきっかけ。その後2018年の「災害級猛暑」があり、学校の教室への空調設備導入の動きが重なった。19年に市から「詳しく話を聞きたい」と高橋会長の元に連絡があり、市役所を

訪問し説明した。同年秋には学校を訪問しながらさらに具体的な説明を行った。

これらを経て市は学校空調に電気エアコンとGHPを併用し、地域の拠点避難所となる学校に電源自立型GHPを設置することを決めた。市議会

心部と南部、西部の3校に設置する計画だったようだ。その後、市議の要望もあつて最終的には9校になった。

高橋市長は昨年9月の市議会定例会の所信説明の中で、災害時に学校の普通教室を避難場所として使用することについて

「感染症対策や、高齢者・障がい者、乳幼児などへのプライバシー保護に配慮した区分スペースとして機能させることがで

きる」と述べている。また、市議定例会で市議の「GHPを暖房で使わないのはなぜか」との質問に対し、市は「灯油とガスを比較して灯油が安価だと仮定しているためで、燃料単価が変更しGHPが有利だと判断されれば暖房としても大いに活用したい」と答弁している。

「感染症対策や、高齢者・障がい者、乳幼児などへのプライバシー保護に配慮した区分スペースとして機能させることがで

きる」と述べている。また、市議定例会で市議の「GHPを暖房で使わないのはなぜか」との質問に対し、市は「灯油とガスを比較して灯油が安価だと仮定しているためで、燃料単価が変更しGHPが有利だと判断されれば暖房としても大いに活用したい」と答弁している。

LPガス供給事業者については、災害時の保安や供給を考慮してそれぞれの学校の近くの事業者にするよう横手LPガス協議会が市に要望。学校

近在の事業者が参加する



大森小学校は電源自立型20馬力2台を設置。バルクは他校と同様980キロワット

きると述べている。また、市議定例会で市議の「GHPを暖房で使わないのはなぜか」との質問に対し、市は「灯油とガスを比較して灯油が安価だと仮定しているためで、燃料単価が変更しGHPが有利だと判断されれば暖房としても大いに活用したい」と答弁している。

LPガス供給事業者については、災害時の保安や供給を考慮してそれぞれの学校の近くの事業者にするよう横手LPガス協議会が市に要望。学校

近在の事業者が参加する

近在の事業者が参加する